令和2年度　日野川水害タイムライン勉強会

令和2年9月10日(木)
国土交通省　日野川河川事務所（14:00～15:30）

-次第-
1.開会挨拶
2.日野川水害タイムライン（令和2年度版）の変更点
3.気象台からのお知らせ（情報提供）
4.読み合わせの進め方とポイント
5.読み合わせの実施
6.質疑応答
7.閉会挨拶

平成30年度から運用を開始している日野川水害タイムラインの勉強会を開催しました。台風期前に**日野川水害タイムラインの概要や運用方法について共通理解**を図り、また、**参加機関がそれぞれの役割や目標、重点行動について確認**するために読み合わせを実施しました。

◆参加機関

米子市　防災安全課
米子市　学校教育課
米子市　水道局　計画課
伯耆町　総務課
鳥取県　河川課
鳥取県　地域振興局　西部振興課
鳥取県　米子県土整備局　維持管理課
鳥取県　米子警察署　警備課
鳥取県　黒坂警察署　警備課
鳥取県　西部広域行政管理組合消防局　警防課
防衛省　陸上自衛隊　第8普通課連隊
気象庁　鳥取地方気象台

福祉施設事業者
なんぶ幸朋苑
博愛苑
JR西日本㈱　米子支社　安全推進室
中国電力ネットワーク㈱ 米子ネットワークセンター変電課
米子ガス㈱　施設管理部
NTT西日本㈱　鳥取支店
㈱DARAZコミュニティ放送
国土交通省　中国地方整備局 倉吉河川国道事務所
国土交通省　中国地方整備局 日野川河川事務所

出席：16機関　28名
（検討会構成機関：機関）

◆日野川水害タイムラインの変更点

日野川水害タイムラインの令和2年度における運用に向けて、以下の修正点についてタイムライン事務局より報告した。

日野川河川事務所からの報告

- タイムラインレベルを警戒レベルと整合を図った着色に修正
- **情報収集に関する行動項目の手段（第3階層）**として情報提供システムを追記
- タイムラインの発動、レベル注意段階への移行条件として**早期注意情報[高][中]**を追加
- ML（ﾒｰﾘﾝｸﾞﾘｽﾄ）定型文の**件名の書式統一**、本文に**レベル判断の根拠、情報提供システムへのリンク**を追記

◆気象台からのお知らせ

タイムラインの運用に係る以下の2つの気象情報について鳥取地方気象台から説明した。

鳥取地方気象台からの説明

- 大雨特別警報切替時の洪水への注意喚起
- 台風に発達する熱帯低気圧予報の5日先までの延長

◆タイムラインの読み合わせ

読み合わせでは、以下の手順でタイムラインレベルごとに想定されるシナリオの状況と重点行動項目を確認した。

① メーリングリストの発信内容で現在のレベルを確認
② 各レベルの気象・河川水位の状況を確認
③ 各レベルの重点行動項目の確認
④ 各レベルにおける情報提供システム活用方法の確認

<読み合わせのポイント>

- **多機関に係る重要な行動項目**と、その項目の**実施のタイミング・手順・連携先**を確認
- **多機関に係る情報発信**と、その情報の**発信のタイミング・発信の方法**を確認

勉強会の様子

レベルごとの確認

<質疑応答・意見交換>

質疑	回答（タイムライン事務局）
• 風台風の場合タイムラインは発動されないという理解でよいか（倉吉河川国道事務所）	• 水位の上昇が見込まれるような雨量の予測が出ていなければ発動しないという判断をしている
• ゲリラ豪雨のようにポイントで激しい雨が降った場合にはレベルが途中から発動される場合もあるか（倉吉河川国道事務所）	• 前線性降雨や線状降水帯の場合、水位の急激な上昇によってレベル1などからの発動があり得る。
• 計画規模と想定最大規模で浸水範囲も深さも変わるが、タイムラインの際には対象エリアをどう考えれば良いか（米子市）	• タイムラインでは想定最大を前提としている。今後はさらに二級河川の氾濫や、土砂災害、波浪や高潮などマルチハザードへの取り組みも検討していきたい。
• 一部タイムラインの行動項目や役割分担に実態と異なる点や確認が必要な項目がある。（米子ガス、中国電力ネットワーク、西部広域行政管理組合消防局）	• 本出水期の運用を通して変更や見直しが必要な項目を各機関で確認いただき、振り返りで修正・改善していきたい。

参加機関からの質問や意見交換の様子

◆　まとめ

- タイムラインを**発動してから発災までの運用と各機関の対応や連携**について大きな流れを確認することができた。
- 運用開始してからこれまで大きな出水がなかったが、**課題や改善点を抽出するためには、実践的な訓練などを通してブラッシュアップを図る**必要がある。